

1. ISFRI (国際法医放射線画像診断学会) などに見る海外の動向

吉宮 元心 / 飯野 守男 鳥取大学医学部法医学分野

死亡時画像診断 (Autopsy imaging : Ai) は、わが国における死因究明の手段として広く普及しつつある。なかでも単純CTを用いたAiは全国各地で行われており、法医学分野だけでなく、救急医学分野においても死因究明に積極的に用いられている。第16回オートプシー・イメージング (Ai) 学会学術総会 (2018年7月、茨城県つくば市) では、過去最大の参加者となる300名超が集まり、わが国においてAiに対する関心が高まると言える。

昨今、単純CTに加えて死後造影の技術が発達しており¹⁾、なかでも死後造影専用装置である「Virtangio」(パートアンギオ、スイス・Fumedica社製)を用いた多相死後血管造影CT (multiphase postmortem CT angiography : MPMCTA) が徐々に広まりつつある^{2), 3)}。また、国際的には死後MRIの有用性についても注目され、研究が活発に行われている。

現在、わが国のAiに使われているモデルのほとんどはCTであり、死後MRIや死後造影の報告は少ない。ここ数年の海外の動向から考えると、今後わが国においてもこれらの画像検査の機会は増えていく可能性がある。そこで、われわれは、現在の法医学分野における画像診断の国際的な動向を知ること、さらに、専用装置を用いた死後造影の実際を学ぶことを目的として、海外で行われた2つの集會に参加した。本稿では、オーストラリアで開催された学会「ISFRI 2018」およびイタリアで開催されたワークショップ「Virtangio ワークショップ2018」、それぞれの概要を報告する。

■ ISFRI 2018

1. オーストラリアではじめてのISFRI開催

2018年5月10～12日の3日間、国際法医放射線画像診断学会 (7th annual meeting of the International Society for Forensic Radiology and Imaging : ISFRI) がオーストラリア・メルボルンで開催された。

ISFRIは、死後画像診断を普及させるため、Michael Thali先生 (スイス・チューリヒ大学) を中心に2011年に設立された、法医学分野の死後画像を専門に扱う唯一の国際学会である。現在は年に1回、国際法医放射線技師学会 (International Association of Forensic Radiographers : IAFR) と合同で学術集會を開催している。メンバーは法医学者、放射線科医、診療放射線技師を中心に、死後画像診断にかかわる関係者からなり、死後画像診断方法の研究や診断ガイドラインの作成、また、死後画像診断にかかわる新しい機器や教育の紹介などを行っている。この分野の世界的な広がり、より多くの関心を集めるため、今回初めてヨーロッパ外で行われた。大会長は、この分野の第一人者でもあるビクトリア法医学研究所 (VIFM) の法医放射線学者Chris O'Donnell先生で、筆者 (飯野) の恩師に当たる。

今回、ISFRIが初めてヨーロッパ外の都市で開催されるということで、法医学

分野における死後画像診断の広まりが世界各地へ浸透してきた様子がうかがえる。総勢250名余の参加者のうち、日本からは22名を占め、開催国オーストラリアに次ぐ参加者数であった (図1)。

2. 日本発のAi研究

わが国からは、招待演者としてわが国の死後画像研究のリーダー的存在である兵頭秀樹先生 (北海道大学死因究明教育研究センター) の講演のほか、横野陽介先生 (東京大学法医学)、小林智哉先生 (筑波メディカルセンター病院)、吉田真衣子先生 (千葉大学法医学)、藤本秀子先生 (鳥取大学法医学) らの口演発表のほか、筆者 (飯野 : 鳥取大学法医学) も指定講演を行った。さらに、ポスター発表も多数行われ、日本発のさまざまな研究成果が報告された。

兵頭先生は招待講演で、諸外国と異なる日本の法的あるいは社会的事情から必然的に生まれた死後画像診断の広がりについて説明され、ISFRIで翻訳の要請のあった『死後画像読影ガイドライン2015年版』⁴⁾の英語版を“POSTMORTEM IMAGING INTERPRETATION GUIDELINE 2015 IN JAPAN”⁵⁾として出版されたことを報告された。

飯野は指定講演内で、日本において民間NPOによる死因究明事業が開始されていることを報告し、NPO法人「りすシステム」(東京)の活動を紹介した。同NPOでは、生前に自らの死因の究明を望む方に対し、Aiを用いた死因診断事業を提供しており、世界的にもユニー